

宮沢賢治「よだかの星」④

名前	

○つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

山^{やま}焼^やけの火は、だんだん水のように流れてひろがり、雲も赤く燃^もえているようです。

よだかはまっすぐに、弟の川^{かわ}せみの所へ飛んで行きました。きれいな川せみも、丁^{ちよう}度^ど起きて遠くの山^{やま}火^か車^じを見ていた所^{ところ}でした。そしてよだかの降^おりて来たのを見て云^いいました。

「兄^{にい}さん。今^{こん}晩^{ばん}は。何^{なに}か急^{きゆう}の用^{よう}ですか。」
「いや、僕は今度遠い所へ行くからね、その前^{まへ}一寸お前^{まへ}に遭^あいに来たよ。」

「兄^{にい}さん。行^いっちゃいけませんよ。蜂^{はち}雀^{すずめ}もあんな遠くにいるんですし、僕ひとりぼっちになってしまっじゃありませんか。」

「それはね。どうも仕^{しか}方^{かた}ないのだ。もう今日は何^{なに}も云^いわないで呉^くれ。そして前もね、どうしてもとらなければならぬ時のほかはいたずらにお魚を取ったりしないようにして呉^くれ。ね、さよなら。」

「兄さん。どうしたんです。まあもう一寸お待ちなさい。」

「いや、いつまで居てもおんなじだ。はちすずめへ、あとでよろしく云ってや
って呉れ。さよなら。もうあわないよ。さよなら。」

よだかは泣きながら自分のお家へ帰って参りました。みじかい夏の夜はもう
あけかかっています。

羊歯の葉は、よあけの霧を吸って、青くつめたくゆれました。よだかは高く
きしきしきしと鳴きました。そして巣の中をきちんとかたづけ、きれいにから
だ中のはねや毛をそろえて、また巣から飛び出しました。

霧がはれて、お日さまが丁度東からのぼりました。よだかはぐらぐらするほ
どまぶしいのをこらえて、矢のように、そっちへ飛んで行きました。

「お日さん、お日さん。どうぞ私をあなたの所へ連れてって下さい。灼けて死
んでもかまいません。私のようなみにくいからだでも灼けるときには小さなひ
かりを出すでしょう。どうか私を連れてって下さい。」

行っても行っても、お日さまは近くなりませんでした。かえってだんだん小
さく遠くなりながらお日さまが云いました。

「お前はよだかだな。なるほど、ずいぶんつらからう。今度そらを飛んで、星
にそつたのんでごらん。お前はひるの鳥ではないのだからな。」

よだかはおじぎを一つしたと思いましたが、急にぐらぐらしてとうとう野原
の草の上に落ちてしまいました。そしてまるで夢を見ているようでした。から

だがずうっと赤や黄の星のあいだをのぼって行ったり、どこまでも風に飛ばされたり、又鷹が来てからだをつかんだりしたようでした。

問題

お日さまはよだかに「今度そらを飛んで、星にそうたのんで「らん」と言っています。星になにをたのむように言っているのですか。本文中からたのむことを書きぬきましょう。

